

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00616

研究課題名（和文）新制大学制度における宗教関連の学問・養成・資格に関する多角的研究

研究課題名（英文）Multifaceted research on religion-related studies, training, and qualifications under the new university system

研究代表者

林 淳（HAYASHI, Makoto）

愛知学院大学・文学部・教授

研究者番号：90156456

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、研究代表者1名、共同研究者12名のほか、外部より6名の研究者を交えて「大学と宗教」に関わる研究会を計7回開催した。そこでは、日本国内の事例のみならず、諸外国の事例も交えて報告がなされ、活発な議論や意見交換が行われた。また、「大学と宗教」第3巻の書籍編さんも行われ、戦後日本に焦点を当てた「大学と宗教」に関する研究成果を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、宗教学や宗教において従来問われることがなかった宗教を研究する場としての「大学」について、新しい知見を多く得ることができた。その中でも特に重要な点としては、大学とは近代国家にとっての重要な構成要素であり、かつ、大学で実践されている学問も同様であるという点であった。大学・学問が置かれた時代的・社会的コンテキストを再考する重要性を、戦後日本を舞台にして指摘したのは本研究の最も大きな成果と言える。

研究成果の概要（英文）：In this research, a total of 7 study groups related to "university and religion" were held with 1 principal investigator, 12 collaborators, and 6 researchers from outside. There, not only cases in Japan but also cases from other countries were reported, and lively discussions and opinions were exchanged. In addition, the book edition of Volume 3 of "University and Religion" was also held, and we were able to obtain research results on "University and Religion" focusing on postwar Japan.

研究分野：宗教学

キーワード：大学 宗教 戦後日本 学問 仏教 神道 キリスト教

1. 研究開始当初の背景

本研究は、かつて日本の宗教学分野で注目された宗教概念研究に対する批判を出発点と定めた。1980～2000年代にかけての時期、日本の宗教学では宗教概念の近代的な歴史性や政治性に着眼した研究、いわゆる宗教概念研究が多くの耳目を集めた。そこでは宗教概念の自明性に疑義が呈され、宗教学という学問領域や研究方法が問い直されてきた(田丸徳善『宗教学の歴史と課題』1987、島蘭進・鶴岡賀雄編『宗教 再考』2003、前川理子『近代日本の宗教論と国家』2015等)。そのような動向は、神学や仏教学、神道学など他の宗教関連学問にも波及していった。この30年ほどの間、多くの宗教関連学問では自身を対象とした歴史化作業が進められ、様々な視点から学問史が記述されてきた。

しかし、である。それら一連の作業では、日本の宗教関連学問が大学制度上において展開してきたことをほとんど重視してこなかった。そもそも日本の大学制度は、19世紀プロシア型を模範として創始され、現在に至るまで国家主導のもと強い世俗性を前提としながら運用されてきた。日本における宗教関連学問は、この特質を有する大学制度の上で展開してきたのである。非世俗的領域を多分に扱う宗教関連学問が、大学という世俗的制度の上において展開してきたという事実。学問史を記述する際には絶対に考慮すべき重要な事実にも関わらず、ほとんどの宗教関連学問史においてこの事実は無視されてきたのであった。

更に、我々は大学制度上における宗教関連学問の実践・応用事例が等閑視され続けていることも課題と考えている。それは、大学内での宗教者養成と宗教関連の資格提供である。国内で宗教者養成を実施している大学は26大学であるが(2017年4月段階)そこでの養成実態は全く研究対象となつてこなかった。それは、大学を基盤として提供されている宗教関連資格制度(臨床宗教師、宗教文化士)にも同じことがいえる。両制度は発足して約5年ではあるが、着実に成果を上げており、現在ではそれぞれ10大学ほどと連携し資格提供を行っている。本研究メンバーの高橋原(分担)は前者の、山梨有希子(協力)は後者の事務局業務に携わっているが、共に両資格制度を対象とする本格的な研究が不在であることを指摘している。宗教関連学問の現在的意義を探究しようとする時、上記の事例群は宗教関連学問の実践・応用事例として極めて重要であるにも関わらず、詳細が明らかになっていないのであった。

2. 研究の目的

研究の最終的な目的は、上述した「問い」への回答作業を通して、大学制度上で宗教を扱うことの現在的意義を探究し、将来展望を提示していくことにある。歴史を振り返ってみると、大学制度上における人文系諸科学の危機が叫ばれるのは、現在に限ったことではない。日本を例に取れば、特に明治10年代の大学創設期や昭和10年代の戦時期において同様の現象がみられた。宗教関連学問もその渦中において、種々の方法を用いて自身の有用性や実用性を論じ自己再編を行っていたことが、我々の研究によって明らかになっている。70年の歴史をもつ戦後の新制大学制度も、政治・経済・社会状況等の変化に伴い種々の改変を経て現在に至っている。本研究では、それらを丁寧に踏まえた上で、宗教関連学問・大学内宗教者養成・大学基盤の資格提供を歴史的に解明し、現状

の実態把握を行う。そして最終的には、大学制度上で宗教を扱うことの現在的意義を探究し、将来展望の提示へと接続していく。

3. 研究の方法

本研究では、上述した「問い」および目的のもと、学問、養成、資格という視点ごとにグループを作り、調査研究を行った。

学問：宗教関連学問の戦後史解明と現在的意義の探究

第1グループは、神学・キリスト教学・仏教学・浄土学・天理教学・宗教哲学の戦後史に焦点を当てる。その際、学説史として歴史叙述を行うのではなく、学問的方法論の変遷や隣接研究分野との関係、専任教員業績や大学内設置科目の実態調査を踏まえながら、各学問の戦後史解明や現在的意義を探究していった。担当者は以下の通りである。

[担当者] 小柳敦史、柴田泰山、三浦周、岡田正彦、松野智章

養成：大学内宗教者養成の歴史的解明および現状に関する実態調査

第2グループは、歴史調査担当と実態調査担当の2つに分かれる。前者は8つの宗教系大学（仏教系3、神道系2、キリスト教系3）における宗教者養成の戦後史について調査研究を行うが、必要に応じて戦前期についても調査・言及を行った。その際には特に、養成理念・養成カリキュラム・担当教員・在籍学生数・教団規則について、大学内資料及び教団資料に基づき実証的に明らかにした。一方、後者は、同8大学を対象に宗教者養成に携わっている大学専任教員へのインタビュー調査を実施した。養成課程を提供する側、享受する側の双方を調査することによって、宗教関連学問の応用・実践事例の実態について明らかにしていった。担当者は以下の通りである。

[担当者] 林淳、安中尚史、藤本頼生、江島尚俊、武井順介、齋藤崇徳、山岡三治

資格：大学を基盤に提供している宗教関連資格に関する調査研究

第3グループは、大学を基盤とする宗教関連の資格制度の中で、臨床宗教師制度、宗教文化士制度を取り上げる。前者は東日本大震災を機に発足した既存宗教者へのリプログラム資格制度（拠点：東北大学）、後者は宗教文化教育推進センターが大学生向けに提供している資格制度（拠点：國學院大学）である。これら2つの制度の発足背景や現在までの歴史、宗教関連学問と教育カリキュラムの関係、資格希望者への課題内容、資格授与実態等について明らかにするとともに、現行制度の課題についても検討していった。担当者は以下の通りである。

[担当者] 高橋腹、山梨有希子

4. 研究成果

【2018年度】

武井順介「仏教系大学の「僧侶」養成とその類型 立正大学・大正大学・駒澤大学を事例として」、『立正大学文学部研究紀要』35、2019、pp.79-97

武井順介「大学はいかに僧侶を養成するのか 仏教系大学の養成とその類型」、『宗教研究』92(4)、2019、pp.127-128

- 高橋原「宗教者による心のケアと儀礼の力」『祈りと救いの臨床』4、2018、pp.125-136
- 齋藤崇徳「キリスト教系大学における聖職者養成：制度比較にもとづく分析」、『宗教研究』92 別冊、2019、pp.128-129
- 安中尚史「明治期における日蓮宗布教の近代化と文書伝道」、『印度学仏教学研究』67-2、2019、pp.673-680
- 安中尚史「明治期における日蓮宗布教誌・機関誌に関する一考察」、『立正大学大学院紀要』35、2019、pp.1-14
- 岡田正彦「大教院分離運動と仏教天文学 花谷安慧『天文三字経』を読む」、『宗教研究』392、2018、pp.31-54
- 林淳「いまなぜ近代仏教なのか（討論）」、『現代思想』46-16、2018、pp.152-168
- 林淳「仏教と修験道」、『現代思想』46-6、2018、pp.302-310
- 松野智章「「信仰盲」という分析概念は可能か 8か国調査を踏まえての日本における宗教意識の考察」、『東洋学研究』56、2019、pp.269-282
- 三浦周「近代における仏教青年会運動の射程 青年 および 新仏教 概念」、『佛教文化学会紀要』27、2019、pp.327-356
- 江島尚俊「どのように文部省は宗教行政を掌握したのか」、『宗教研究』92-3、2018、pp.487-510
- 柴田泰山「『逆修説法』所説の浄土五祖伝について」、『日中浄土』27、2018、pp.10-33
- 柴田泰山「『往生礼讃』所引の彦琮法師「願往生礼讃偈」について」、『文化研究所年報』49、2018、pp.107-157
- 西村明(編)『隠される宗教，顕れる宗教』、2018、岩波書店
- 大谷栄一・菊地暁・永岡崇編著『日本宗教史のキーワード 近代主義を超えて』、2018、慶応義塾大学出版会
- 岩田真美・桐原健真編『カミとホトケの幕末維新』、2018、法蔵館
- 智山勸学会編『日本仏教を問う 宗学のこれから』、2018、春秋社

【2019年度】

- 藤本頼生「「神職」と「労務」を考える 神道の労働観・職業観と奉務規則・神職概念を手掛かりに」、『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』14、2020、1-27
- 藤本頼生「『古事記』神代巻に登場する異名同種神の解釈の再整理と地域分布 「阿須波神」と「波比岐神」をめぐって」、『古事記学』6、2020、183-212
- 藤本頼生『明治維新と天皇・神社 一五〇年前の天皇と神社政策』錦正社、2020
- F・W・グラーフ著 / 安酸敏眞監訳 / コーディー・ブランスクム・小柳敦史・鐸木道剛・森川慎也訳『真理の多形性 F・W・グラーフ博士の来日記念講演集』、北海学園大学出版会、2020

【2020年度】

- 小柳敦史「Liberal Protestantism and Christian Studies at Kyoto University: A Case Study of Seiichi Hatano、*Journal for the History of Modern Theology / Zeitschrift für Neuere Theologiegeschichte*、27-1、2020、pp.4-11
- 三浦周「書評「中西直樹『新仏教とは何であったか—近代仏教改革のゆくえ』」、『近代仏教』27、2020、pp.76-80

- 安中尚史「大正期における日蓮宗の門下統合活動」、『印度學佛教学研究』69-2、2021、pp.508-514
- 柴田泰山「善導『觀經疏』所説の宗教体験について」、『三康文化研究所年報』51、2020、pp.135～170
- 柴田泰山「曇省「善導讚」に関する一考察」、『三康文化研究所所報』55、2020、pp.1-pp.21
- 柴田泰山「『決答末代念仏授手印抄』訳註(1)」、『記主禅師研究所紀要』3、2020、pp.23-pp.49
- 林淳「鴻雪爪の非僧非俗」、『越境する宗教史』上、2020、149-174
- 林淳「日本近世・近代の宗教史」、『日本宗教史』1、2020、153-193
- 林淳「アカデミズムと宗教」、『近代日本宗教史』2、2020、162-182
- 林淳「曹洞宗四箇中学林・私考」、『愛知学院大学文学部紀要』50、2020、1-12
- オリオン・クラウタウ『村上専精と日本近代仏教』、2021、法藏館
- 島藺進・末木文美士・大谷栄一・西村明(編)『近代日本宗教史 第3巻 教養と生命 大正期』、2020、春秋社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 林淳	4. 巻 46-16
2. 論文標題 仏教と修験道	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 302-310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田正彦	4. 巻 92-2
2. 論文標題 大教院分離運動と仏教天文学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 31-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武井順介	4. 巻 35
2. 論文標題 仏教系大学の「僧侶」養成とその類型	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 79-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井順介	4. 巻 92-4
2. 論文標題 大学はいかに僧侶を養成するのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 127-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松野智章	4. 巻 56
2. 論文標題 「信仰者」という分析概念は可能か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 269-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋原	4. 巻 4
2. 論文標題 宗教者による心のケアと儀礼の力	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 祈りと救いの臨床	6. 最初と最後の頁 125-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安中尚史	4. 巻 67-2
2. 論文標題 明治期における日蓮宗布教の近代化と文書伝道	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 673-680
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安中尚史	4. 巻 35
2. 論文標題 明治期における日蓮宗布教誌・機関誌に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦周	4. 巻 27
2. 論文標題 近代における仏教青年会運動の射程	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佛教文化学会紀要	6. 最初と最後の頁 327-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江島尚俊	4. 巻 92-3
2. 論文標題 どのように文部省は宗教行政を掌握したのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 487-510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江島尚俊	4. 巻 49
2. 論文標題 『往生礼讃』所引の彦琮法師「願往生礼讃偈」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三康文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 107-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江島尚俊	4. 巻 27
2. 論文標題 『逆修説法』所説の浄土五祖伝について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日中浄土	6. 最初と最後の頁 10-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤崇徳	4. 巻 92-4
2. 論文標題 キリスト教系大学における聖職者養成：制度比較にもとづく分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 林淳
2. 発表標題 「新しい仏教」論再論
3. 学会等名 第26回日本近代仏教史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林淳
2. 発表標題 近代における「媒介者」
3. 学会等名 第67回宗教史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林淳
2. 発表標題 三条教則からみた亀山の幕末明治
3. 学会等名 第31回亀山歴史博物館記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林淳
2. 発表標題 暦と墓
3. 学会等名 オーストリアアカデミーシンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武井順介
2. 発表標題 大学はいかに僧侶を養成するのか
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安中尚史
2. 発表標題 明治期における日蓮宗布教の近代化と文書伝道
3. 学会等名 第69回日本印度学仏教学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安中尚史
2. 発表標題 日蓮宗の僧侶育成と立正大学
3. 学会等名 佛教文化学会第28回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦周
2. 発表標題 「新仏教」概念の一考察
3. 学会等名 佛教文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦周
2. 発表標題 排耶論研究の過去と現在
3. 学会等名 東北大学国際文化研究科国際日本研究講座公開講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦周
2. 発表標題 排耶論からみる日本仏教の近代化
3. 学会等名 智山青年連合会講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田泰山
2. 発表標題 善導『往生礼讃』所説の日中礼讃について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田泰山
2. 発表標題 曇省「善導讚」に関する一考察
3. 学会等名 浄土宗総合学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柴田泰山
2. 発表標題 浄土宗における大学内僧侶養成について
3. 学会等名 佛教文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤崇徳
2. 発表標題 キリスト教系大学における聖職者養成
3. 学会等名 日本宗教学会 第77回学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 西村明編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 隠される宗教、顕れる宗教	

1. 著者名 大谷栄一他編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 450
3. 書名 日本宗教史のキーワード	

1. 著者名 岩田真美他編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 383
3. 書名 カミとホトケの幕末維新	

1. 著者名 智山勸学院編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 292
3. 書名 日本仏教を問う	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 正彦 (OKADA Masahiko) (00309519)	天理大学・人間学部・教授 (34602)	
研究分担者	武井 順介 (TAKEI Junsuke) (10581639)	立正大学・文学部・専任講師 (32687)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山梨 有希子 (YAMANASHI Yumiko) (10646219)	大正大学・人間学部・非常勤講師 (32635)	
研究分担者	松野 智章 (MTSUNO Tomoaki) (20723662)	大正大学・文学部・非常勤講師 (32635)	
研究分担者	高橋 原 (TAKAHASHI Hara) (30451777)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	藤本 頼生 (FUJIMOTO Yorio) (30612163)	國學院大學・神道文化学部・准教授 (32614)	
研究分担者	安中 尚史 (ANNAKA Naofumi) (40277744)	立正大学・仏教学部・教授 (32687)	
研究分担者	小柳 敦史 (KOYANAGI ATSUSHI) (60635308)	北海学園大学・人文学部・准教授 (30107)	
研究分担者	三浦 周 (MIURA Shu) (60646222)	大正大学・仏教学部・非常勤講師 (32635)	
研究分担者	柴田 泰山 (SHIBATA Taisen) (80451037)	大正大学・仏教学部・非常勤講師 (32635)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	江島 尚俊 (EJIMA Naotoshi) (80569913)	田園調布学園大学・人間福祉学部・講師 (32720)	
研究分担者	齋藤 崇徳 (SAITO Takanori) (80781541)	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構・研究開発部・助教 (82646)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関